

# 服部商店

## 来春CNF専用設備完工

服部商店は、商社部門とメーカー部門を両輪に成長路線を歩む。とくにメーカー部門は積極的に投資しており、早期に成果を上げ、さらなる発展につなげていく。

同社は1947年11月、いまも本社を構える愛知県名古屋市中区丸の内で起業。創業当初は商社部門だけだったが、51



服部信一郎代表取締役

年に京都市伏見区に淀工場を立ち上げ、ものづくりを開始した。

現在、商社部門とメーカー部門の売上比率は3対1。商社部門では製紙や染色業界などで用いられる無機工業薬品を中心に取り扱っている。

淀工場では建築用シーリング剤や接着剤などを生産している。大半がOEM（相手先ブランドによる製造）だが、自社ブランド品の育成にも励んでいる。

自社ブランド品で販路に努めている一つが塗床材「NEO ONE（ネ

オワン）」。エポキシ樹脂を主成分とする製品で、施工時に発生する臭気が少なく、短時間で硬化し、翌日には歩行できるという特徴を有している。こうした利点が認められ、

食品工場や病院などの新設、塗り替えて使用されている。営業活動を強化して普及に弾みをつけたと考え。

メーカー部門ではセルロースナノファイバー（CNF）の事業化にも注力している。可塑性や希釈剤といった液体中で機械的に解繊させた非水系CNF分散材「セナフ」

の提案に取り組んでいる。ユーザーの関心は高く、性能評価、物性評価が行われるなど着実に進展している。

淀工場の増強も図る。スクラップアンドビルドにより新生産棟を建造する。新棟には電子部品向けにユーザーと共同開発した樹脂に添加剤を配合し、ペーパースト化する製造設備や、本格採用に向けCNF関連の準量産機を導入する。総投資額は約3億円で、来春の完工を予定。成長を牽引する新たな製品・事業に育て上げる。